

施策シート

	No	1
実施計画	施策	つくる① 目標林型・ゾーニングの設定
	目的	今後森づくりをしていくうえで必要となる、目指すべき森のかたち（目標林型）と、その配置（ゾーニング）を明らかにします。 現在の森の状態のほか、村民・利用者のニーズを反映して設定します。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R6～R10
	成果指標	大芝高原全域の目標林型・ゾーニングの設定
R6までの取組み	実績・効果	村民アンケートや大芝高原森林づくり協議会、実施計画説明会により、村民や利用者の意見が反映された目標林型・ゾーニングを設定し、実施計画に記載した。
	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 細分化したエリアごとの詳細な計画が必要である。アカマツのシンボルツリーについては、エリアとしての保存を含めて選定の要否、選定の方法、保護方法やその費用も含めて専門的・長期的な視点から慎重に検討すること。
R7報告	R7事業計画	□シンボルツリーの選定（協議会委員の評価以前に掲げていた計画）
	新規・継続	継続
	事業費（実績）	－
	事業実績	シンボルツリーの選定については、8月の協議会で検討を行った。その結果、特定の木を選定し保全するのではなく、芝生広場周辺を「アカマツ保全エリア」等と名付け、エリア全体を保全する方針となった。
	事業効果	アカマツ保全の大まかな方針が固まった。
	今後の課題・取り組み	□アカマツ保全エリアの具体的な保全策の検討 根の保護や、樹脂処理やデジタルデータでアカマツを将来に残す等、協議会で挙げられた案も参考にしながら検討を行う。 □より詳細な目標林型の検討 実施計画で設定した目標林型・ゾーニングにおいて、みんなの森は「多様性の森」となっている。これを踏まえて、林分ごとの目標林型をR10年までに検討する。特に学校林については、中学生が作業しやすい状態にするため、協議会での委員からの提案（抵抗性アカマツの植栽、薪炭林としての循環利用）等を参考に速やかに検討を進める。 「資源の森」については、次期計画策定時に具体的な議論を行い計画に反映する。（実施計画p33）
	写真・図表による説明	実施計画の図の抜粋
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・アカマツ保全エリアにおける具体的な保全策、周知や広報の方法について検討、実施を行うこと。 ・みんなの森のエリアごとの詳細なゾーニングを検討すること。
R8計画	R8事業計画	■アカマツ保全エリアの具体的な保全策の検討 ■みんなの森の詳細ゾーニングの検討 ■学校林の利用について検討
	新規・継続	継続
	事業費（予算）	－

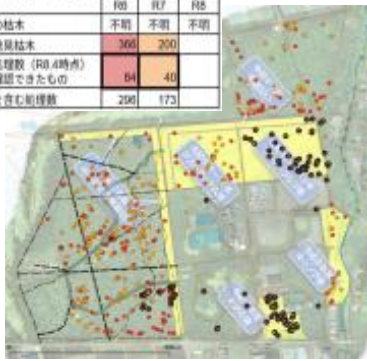
施策シート

	No	2
実施計画	施策	つくる② 整備計画・ガイドラインの策定
	目的	目標林型を達成するために「いつ・どこで・どのような整備をしていけばよいか」を記した整備計画を策定します。次の森をつくるための植栽・保育作業や、日常的な公園管理としての刈り払い作業も含みます。それぞれの整備が目的に沿ったものとなるよう、伐採や刈り払いのガイドライン（作業指針）を策定します。
	実施主体	観光森林課 南箕輪村開発公社
	実施期間	R6
	成果指標	整備計画の策定 伐採ガイドラインの見直し 刈り払いガイドラインの策定
R6までの取り組み	実績・効果	・実施計画第5章に、2030年までのアカマツ主伐に関する整備計画を策定したことにより、伐採スケジュールや必要経費が明らかになり、計画的にアカマツの伐採を進めることができるようになった。 ・伐採ガイドライン、刈り払いガイドラインを策定し、アカマツ伐採後の森林についても計画的に作業を実施することができるようになった。
	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 各ガイドラインについて、実施計画に沿った整備や必要な配慮が行われているかチェック体制の構築が必要である。
R7報告	R7事業計画	・整備方法の検討 □更新・保育の必要作業量把握と実施体制づくり □刈り払いガイドラインの運用と見直し
	新規・継続	継続
	事業費(実績)	—
	事業実績	・大芝村有林整備業務の仕様書をR7.4に改訂し、刈り払いガイドラインの内容を一部反映させた。 ・新規にスタートした選択的林床刈り払い業務に、刈り払いガイドラインの内容を反映させた。 ・整備方法の詳細を現場関係者で認識共有するための現場協議を定期的実施した。
	事業効果	下層植生の育成ができるようになった。
	今後の課題・取り組み	・伐採時の重機走行ルートを選定や希少植生保全について、チェック体制が構築できず、実行監理が伴わなかった。関係者とよく協議して進めるようにする。（伐採業務の設計段階、伐採業者との初回現場立ち合い時に地域林政アドバイザーが関与する。）
	写真・図表による説明	実施計画の見取り図、刈り払いガイドラインのポンチ絵
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・刈り払いガイドラインが策定され反映が進んだことは良かった。 ・継続して整備していくため、全ての事業者へのガイドラインの徹底と、整備・施業が適切に行われたかを検証・見直しできるチェック・報告体制の構築が必要である。
R8計画	R8事業計画	整備計画、ガイドラインに沿った作業の実施に向け、関係者との協議、監理を行う。
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	—

施策シート

	No	3
実施計画	施策	つくる③ 着実な樹種転換の実施
	目的	まだ松枯れに感染していないものを含めてアカマツを伐採し、他の樹種へ転換していきます。村発注業務により整備計画に沿って着実に樹種転換を進めます。伐採にあたっては、ガイドラインによるほか、伐採業者との打合せ協議を密に行うことで、必要な木を残すなど景観に配慮した整備に努めます。樹種転換にあたっては、植栽によるだけでなく、エリアによっては自生する広葉樹等を活用することで、多様で自然に近い森づくりを進めます。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R6～R12
	成果指標	樹種転換の実施面積
R6までの取り組み	実績・効果	R6年度はマレットゴルフ場及びアスレチック広場の車道沿い2.4haのアカマツ主伐を実施（一部翌年度繰り越し）。 R7年3月に150周年記念植樹祭を行い0.5haに150か所の植栽を実施。
	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 更新・保育についても計画的な森づくり体制を整える必要がある。また、アスレチック広場の伐採も早期に実施すること。
R7報告	R7事業計画	■アカマツ主伐の計画的実施 ■主伐済林分の更新・保育
	新規・継続	継続
	事業費(実績)	・アカマツ主伐 設計業務 1,947,000円 みんなの森車道沿い 40,018,000円 ・下刈り 植樹祭会場下刈り 748,000円×2回 ・選択的林床刈払業務 1,520,640円
	事業実績	・アカマツ主伐4.3ha(みんなの森車道沿い) ・保育 下刈り0.5ha(R6植樹祭 植栽地) ・選択的林床刈払業務2.9ha
	事業効果	実施計画に沿ってアカマツの主伐を実施し、樹種転換を進めることができた。 R2～4アカマツ伐採範囲の一部で、刈り出し(天然更新)を完了させた。 R6年度の150周年植樹祭の植栽地の下刈り(保育)を行った。
	今後の課題・取り組み	・アカマツ主伐の計画的実施 R8以降も引き続き計画どおりにアカマツ主伐を進めていく。 □主伐済林分の更新・保育 更新・保育については、当面は現場レベルの計画で優先順位をつけながら進めていく。
	写真・図表による説明	アカマツ主伐作業の様子 天然更新の森づくり   
	R7評価	計画どおり実施されている ・限られた予算の中、村民にも「見える」形で、確実に進められている。 ・伐採により様子が変わり驚く人もいると思うので、今後のエリア計画（こういったふうに森が変わっていくか）を掲示してはどうか。
	R8事業計画	■アカマツ主伐の計画的実施(キャンプ場) ■主伐済林分の更新・保育
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・大芝村有林整備事業 43,000,000円 ※アカマツ主伐、植樹祭会場の下刈りを含む ・大芝村有林測量・設計業務 3,000,000円 ・選択的林床刈払業務 1,500,000円 ・間伐材保管料 500,000円

施策シート

実施計画	No	4																												
	施策	つくる④ 被害木・危険木の巡視と処理																												
	目的	点在する松枯れ被害木については、被害拡大防止や安全対策の観点から、村と南箕輪村開発公社が協力して定期的に巡視し、迅速に処理します。 巡視・処理に関する役割分担、連絡体制、データ管理方法を整理し、漏れなく迅速に対処できる体制を構築します。																												
	実施主体	観光森林課 南箕輪村開発公社																												
	実施期間	R6～R12(役割分担、連絡体制、データ管理方法の整理はR6)																												
R6までの取組み	成果指標	松枯れ被害木の対処率(処理本数／発見本数)																												
	実績・効果	危険木、枯損木処理を定期的に実施。 危険木に関する役割分担、連絡体制の整理を検討した。																												
R7報告	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 枯損木処理はデータ管理により、計画的・効率的に対応する必要がある。安全管理は最優先課題であり、危険木処理フローの明確化について対応すること。 また、成果指標について見直しを検討すること。																												
	R7事業計画	・危険木・被害木の処理(歩道沿い優先) ・林内立ち入り規制などの安全対策 ・危険木処理フローの明確化																												
	新規・継続	継続																												
	事業費(実績)	【危険木処理】村有林(大芝高原内)の危険木処理 1,296,000円 【松枯れ処理】巡視員 95,580円 12回(村内) 村内の松枯れ処理 14,694,184円※ (※松枯れ対策関連補助金内訳) 松林健全化推進事業 5,475,000円 保全松林緊急保護整備事業 1,066,100円 市町村森林整備支援事業 4,500,000円																												
	事業実績	・危険木処理 大芝高原内の危険木を処理(大芝の湯駐車場周辺・味工房駐車場出入口・ファームポンド) ・松枯れ被害木の対処 発見本数:200本 処理本数:173本 ・村開発公社と連携し、危険木の報告体制を整えた。																												
	事業効果	落枝・倒木の危険がある樹木や、道沿いに張り出している樹木を伐採し安全を確保した。 人の通りのあるマレットゴルフ場などの施設周辺やセラピーロード沿いなどの松枯れ被害木については伐採処理を行った。また落枝・倒木注意の看板を製作し、利用者への注意喚起を行った。																												
	今後の課題・取り組み	・被害・処理状況の把握 過去に発見された枯木の処理状況(伐採したか、残っているか)が不明瞭。IDで適切に管理する。 ・被害木の処理 全数処理は困難であるため、引き続き人通りの多い場所を優先的に実施するなどの安全対策は行いながら、松枯れ被害拡大防止に努める。 ・立入禁止などの安全対策 被害木処理が間に合わない遊歩道や林内は落枝等の危険があるため、立ち入り規制などの対応を引き続き検討・実施していく。 ・危険木処理フローの明確化 日常点検のほか、定期点検の実施を検討する。危険木の巡視・処理に関する連絡は書面で残していく。																												
写真・図表による説明	枯損木の処理状況	<table><tr><th colspan="4">●大芝高原内のマツ枯れ被害木</th></tr><tr><th></th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th></tr><tr><td>既存の枯木</td><td>不明</td><td>不明</td><td>不明</td></tr><tr><td>新規発見枯木</td><td>366</td><td>200</td><td></td></tr><tr><td>うち処理数 (R6:4時点)</td><td>64</td><td>40</td><td></td></tr><tr><td>※ID確認できたもの</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>既存を含む処理数</td><td>206</td><td>173</td><td></td></tr></table>  	●大芝高原内のマツ枯れ被害木					R6	R7	R8	既存の枯木	不明	不明	不明	新規発見枯木	366	200		うち処理数 (R6:4時点)	64	40		※ID確認できたもの				既存を含む処理数	206	173	
	●大芝高原内のマツ枯れ被害木																													
	R6	R7	R8																											
既存の枯木	不明	不明	不明																											
新規発見枯木	366	200																												
うち処理数 (R6:4時点)	64	40																												
※ID確認できたもの																														
既存を含む処理数	206	173																												
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・データ管理により被害の見える化が図られたことは評価できる。 ・危険木処理フローを明確化し、計画的・効率的に処理を行うこと。また、処理効果を明確に説明できる成果指標を設定すること。																												
R8計画	R8事業計画	■危険木、被害木の処理 ■林内立入規制などの安全対策 ■危険木の発見から処理までのフローの明確化																												
	新規・継続	継続																												
	事業費(予算)	【危険木処理】 ・3,000,000円 【松枯れ処理】 ・監視員 98,280円 ・予防対策事業 17,200,000円																												

施策シート

	No	5
実施計画	施策	つくる⑤ 看板・ベンチ等の施設整備
	目的	村民アンケートで意見の多かった案内看板やベンチを増やし、はじめて来る方や、高齢の方でも安心して楽しめるようにします。 セラピーロードについても誰もが利用しやすいように管理、修繕を行います。
	実施主体	観光森林課 南箕輪村開発公社 学校 地域住民等
	実施期間	R7～R12
	成果指標	整備箇所数
	実績・効果	-
R7報告	森林協議会 委員コメント	-
	R7事業計画	-
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	-
	事業実績	・樹名板の設置 ・ベンチ設置状況の整理
	事業効果	-
	今後の課題・取り組み	詳細ゾーニングとあわせて、場所や道の名前を委員や村民とともに検討し、その後、看板を設置していきたい。 ベンチは学校や地域住民と協働で製作、設置していく。(学校に村からPR。毎年4月にクラス分のビラ配り。)
	写真・図表 による説明	樹名板の設置  ベンチ設置状況の整理 
	R7 評価	概ね計画どおり実施されている ・案内看板、樹名板、ベンチなどの整備をすすめること。 ・命名や整備作業にあたっては、地域住民の参加を検討すること。
R8計画	R8事業計画	■樹名板の設置 ■ベンチ製作に向け、学校や地域住民にPRしていく ■看板設置に向けゾーニングの検討
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・樹名板製作 39,300円

施策シート

	No	6
実施計画	施策	つかう① 原木活用の方針検討
	目的	アカマツの活用方法について、村民アンケートでは「材として市場に出荷し村の財源に充てる」という回答が最も多くなりました。アカマツ、その他ヒノキや広葉樹を含め、有識者・関係者と協力し、有効な活用方法を検討します。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R7～R12
	成果指標	-
R6までの取組み	実績・効果	-
	森林協議会委員コメント	-
R7報告	R7事業計画	・アカマツ材の販路検討 ・コナラ・クヌギの活用検討
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	立木売払収入額 11,816,318円
	事業実績	・村有林整備で搬出した材は市場へ出荷し、枝条についてもチップ工場へ搬入した。 ・県外市場への出荷や立木の競り売りなどを検討した。 ・県の伊那新校建設事業に対し木材の売り払いを行った。
	事業効果	丸太材及び枝条を出荷したことで、村財政に寄与した。
	今後の課題・取り組み	・アカマツ材は役物の需要低調により、高額の販売はできなかった。時期的なものもあるため、東海市場等での販売を引き続き模索していく。 ・村民の郷土愛を育むため諏訪大社への寄付・利用の実績をPRする。 ・今後ナラ枯れ被害も予想されるため、広葉樹の活用についても検討する。
	写真・図表による説明	出材状況 諏訪大社での活用状況  
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・立木売払の成果や活用結果について、村民へ積極的に周知すること。 ・地元での活用、住民への還元を検討しつつ、ブランド化や都市部との連携によりさらに有益な活用先も検討すること。
R8計画	R8事業計画	■アカマツ材の販路検討 ■活用先についての広報
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	-

施策シート

	No	7
実施計画	施策	つかう② 公共施設等の木質化
	目的	村民アンケートでは「村の公共施設の木材として利用する」という回答が多くありました。 公共施設の木質化などにより、村民が大芝高原の木を身近に感じる環境づくりに努めます。 また、「南箕輪村木材利用推進方針(2019年最終更新)」を「都市(まち)の木造化推進法(2021 年)」に適合する形で改正し、公共建築物以外でも木材利用が進む体制を構築します
	実施主体	南箕輪村(観光森林課ほか)
	実施期間	R7～R12 (南箕輪村木材利用推進方針はR7までに改正)
	成果指標	公共施設での木材利用実績
R6までの取り組み	実績・効果	-
	森林協議会 委員コメント	-
R7報告	R7事業計画	・南箕輪村木材利用推進方針の改定 ・中学校の机の天板をアカマツで作製・設置(前回協議会后に位置づけ)
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	地域材利用促進事業 4,521,000円※ (※財源) 森林環境譲与税 4,521,000円
	事業実績	・木材利用推進方針の改正は未着手。 ・南箕輪村中学校の学習机の天板にアカマツを活用し、設置した。
	事業効果	天板を設置し、公共施設の木質化につながった。また中学校に設置することで、森林環境教育・木質化につながった。
	今後の課題・取り組み	・南箕輪村木材利用推進方針の改定は、県産材利用方針が令和7年度に改定されたため、令和8年度に実施する。 ・天板については、現場の先生のご意見や教育委員会への聞取りから、使用感の評価が必ずしも高くないことがわかった。今後小学校への展開も検討していたが、よりニーズに合った提供方法について改めて検討する。
	写真・図表 による説明	アカマツを利用した学習机の天板 
R7評価	森林協議会 委員コメント	検討を必要とする事項あり ・学習机の天板に関する天板については、塗装やマットでの対応や実施そのものを検討すべきであるが、木育の一環として学校での活用は引き続き検討すること。 ・木材利用推進方針を着実に改正すること。
R8計画	R8事業計画	■南箕輪村木材利用推進方針の改正 ■公共施設の木質化(机天板については要検討)
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	地域材利用促進事業 2,193,000円

施策シート

	No	8
実施計画	施策	つかう③ 木育の推進
	目的	現在実施している大芝高原の材を使用した食育箸、ファーストイのプレゼント等を継続的に実施し、木育を推進します。
	実施主体	南箕輪村(観光森林課ほか)
	実施期間	R6～R12
	成果指標	配布個数
R6までの取り組み	実績・効果	食育箸、ファーストイのプレゼント事業を実施。また保育園に大芝高原産アカマツを使用したおもちゃを配布した。
	森林協議会委員コメント	計画どおりだが検討が必要。 木材に触れる機会は大切であるが、高額なおもちゃを継続配布していくことについて、費用対効果の観点から検討の余地がある。また、成果指標について見直しを検討すること。
R7報告	R7事業計画	・ファーストイ:150個 ・木育おもちゃ まっくんバス:60個 トラック:60個 ミニままごとキッチン:2台 ・食育箸:180セット
	新規・継続	継続
	事業費(実績)	・ファーストイ作製事業 495,000円※(補助)こども子育て応援市町村交付金247,500円 ・木育おもちゃ(保育園) 880,000円 ・食育箸 358,380円
	事業実績	村産材のおもちゃ等の配布 ・ファーストイ(配布個数/配布予定数):133/136個 ・木育おもちゃ:122点 ・食育箸:143セット(対象者全員に配布)
	事業効果	大芝高原産材を使用した製品を配布したことで、家庭での木育につながった。また、比較的森を訪れることが少ない世代への周知につながった。
	今後の課題・取り組み	・木育は継続して実施することが重要な施策であるため、今後も続けていく。ただし保育園へのおもちゃ配布は、協議会からの指摘も踏まえ、配布先や配布内容の見直しも含めて検討する。検討にあたっては保育園等のニーズを聞き取る。 ・成果指標についても検討する。
	写真・図表による説明	ファーストイ  おもちゃ  食育箸 
	R7評価	概ね計画どおり実施されている ・木育の推進のため、継続的に実施すべきであるが、高額なおもちゃの配布は検討の余地がある。村民のニーズや意向を把握し、実施すること。
R8計画	R8事業計画	■ファーストイ事業など村産材のおもちゃ等の配布 ■木製品に対するニーズの把握・反映
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・ファーストイ作製 649,000円 ・木育おもちゃ(保育園) 900,000円 ・食育箸 178,000円

施策シート

	No	9
実施計画	施策	つかう④ 森林空間の活用検討・・・つなぐ③と関連
	目的	村民アンケートや大芝高原森林づくり協議会では、森林の活用について様々な意見がありました。ニーズを反映し、森の資源・魅力を活かした森林体験を提供します。季節にあわせて多様な森の楽しみ方を発信していきます。
	実施主体	観光森林課 健康福祉課 教育委員会 地域住民
	実施期間	R6～R12
	成果指標	イベント・講座の開催回数
R6までの取り組み	実績・効果	健康教室や公民館事業など継続的に実施した。また新たな森づくりの周知のきっかけとして「おおしば森フェス」を開催した。
	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。引き続き、様々な人が森に親しむ機会を設けてほしい。イベント等の内容には村民アンケートの結果を活かし、効果的な取り組みを検討すること。また、成果指標について見直しを検討すること。
R7報告	R7事業計画	■イベント等の開催 ・森林セラピー体験 12回 ・大芝自然観察会 1回 ・大芝野鳥観察会 1回 ・大芝こども未来塾 1回 ・ウォーキング講座 7回 ・てくてく健康教室 6回
	新規・継続	継続
	事業費(実績)	・森林セラピー体験講師料 96,000円 ・公民館講座(自然観察・野鳥観察・未来塾) 40,000円 ・てくてく健康教室 250,000円
	事業実績	■イベント等の開催 ・森林セラピー体験 12回 ・森のおやすみ処 1回 ・大芝自然観察会 1回 ・大芝野鳥観察会 1回 ・大芝こども未来塾 1回 ・ウォーキング講座 7回 ・てくてく健康教室 6回
	事業効果	大芝高原まつりにおいて、「森のおやすみ処」を開催し、普段森を訪れる機会のない住民へのPRにつながった。その他のイベントは継続事業であるが、地域住民がみんなの森を訪れるきっかけづくりとなっている。
	今後の課題・取り組み	・引き続きみんなの森を利用したイベントを各担当課主催で開催する。 ・森林セラピー体験については、参加者が固定化されていることから内容を検討する。 ・成果指標については今後検討する。
	写真・図表による説明	森のおやすみ処  森林セラピー 
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・みんなの森のPRにつながるため、各種イベントを開催していくこと。内容については、住民ニーズを取り入れたものや定期開催のものなど工夫していく必要がある。 ・成果指標について見直しを検討すること。
R8計画	R8事業計画	■イベント等の開催 ■利用者ニーズの把握・共有・反映
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	・森林関連講座講師料 97,500円 ・公民館講座(自然観察・野鳥観察・未来塾) 40,000円 ・てくてく健康教室 250,000円

施策シート

	No	10
実施計画	施策	つかう⑤ 赤松の小屋など付属施設の活用
	目的	休憩やイベントに活用できるよう、赤松の小屋の利用方法を検討します。林望台やかたらい亭については、ニーズにあった形で活用できる方法を検討します。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R7～R12
	成果指標	-
R6までの取組み	実績・効果	-
	森林協議会 委員コメント	-
R7報告	R7事業計画	アカマツ小屋の一般開放に向けた施設改修計画を検討・作成
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	-
	事業実績	アカマツ小屋のトイレとカギ(建物入口・資材置場)を改修した。
	事業効果	利便性が向上した。
	今後の課題・ 取り組み	アカマツ小屋を誰もが利用できる状態には至っていない。指定管理者との協議や、森林協議会で利活用に向けて検討する。
	写真・図表 による説明	アカマツの小屋  トイレ・鍵の改修  
	R7評価	検討を必要とする事項あり ・赤松の小屋は作業小屋のイメージがあり、一般の方は入りにくい。改装やベンチ設置等によりお出迎え要素の検討が必要。レンタルオフィスや集会所、イベント実施など多目的な利用方法を検討していただきたい。
	R8計画	R8事業計画 ■アカマツ小屋の一般開放に向けた施設改修計画を検討・作成。 ■林望台は施設(机・野鳥給餌台)の製作・設置を、住民協働で実施できるよう検討する。(施策No14と関連) ■共生サイト登録による交付金(生物多様性保全推進交付金)を活用した整備を検討する。
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	-

施策シート

	No	11
実施計画	施策	つかう⑥ 森の資源・空間利用のルールづくり
	目的	「みんなの森」における資源採取や利用のあり方は「南箕輪村信州大芝高原みんなの森設置条例」および「南箕輪村信州大芝高原みんなの森管理規則」で定められていますが、みんなが心地よく持続可能な利用をしていくために、ルールを見直し、周知します。
	実施主体	観光森林課 森林協議会
	実施期間	R7～R9
	成果指標	-
R6までの取り組み	実績・効果	-
	森林協議会 委員コメント	-
R7報告	R7事業計画	-
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	0
	事業実績	森部(仮)とも関連し、みんなの森で整備活動等を行う際の手続きの流れを整理した。(大芝高原みんなの森設置条例に基づく申請)
	事業効果	-
	今後の課題・取り組み	・施策No14森部(森ねっと?)スタートの周知とあわせて、みんなの森のルール(できること・できないこと)をわかりやすく整理・周知していく。その際、山菜の収奪的な大量採取などについては、自粛を呼び掛ける。
	写真・図表 による説明	-
R7評価	森林協議会 委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・読みにくいルールは読まないで、わかりやすいルールを作り、パンフレット、HP、掲示板等で周知されたい。 ・最低限のマナー、ルールが周知されてほしい。
R8計画	R8事業計画	■資源利用のルール検討 ■空間利用のルール検討
	新規・継続	新規
	事業費(予算)	-

施策シート

	No	12
実施計画	施策	つなぐ① 情報発信の強化・統合
	目的	ウェブサイトやSNSを活用し、大芝高原の森に関わる様々な情報が一元的に得られるようにします。村の広報誌でも、様々な森の魅力や情報を発信していきます。 また、村民アンケートではクマの出没に対する不安の声が多くありました。安全対策の一環として、クマの目撃情報、その他スズメバチの注意喚起等の安全に関する情報を発信します。
	実施主体	観光森林課 健康福祉課 教育委員会 南箕輪村開発公社
	実施期間	R7～R12
	成果指標	村報掲載回数、SNS発信数
	実績・効果	-
R7報告	森林協議会 委員コメント	-
	R7事業計画	■村HP、村広報誌による情報発信 ■SNS(Instagram)による情報発信 ■自然共生サイトへの登録申請
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	記録映像・写真撮影業務 229,900円
	事業実績	SNS投稿数 5回 アカマツ伐採の経過を残すため、ドローンによる伐採地の撮影を行った。
	事業効果	・SNSを開設し、みんなの森についての情報発信を開始した。また村報、ウェブサイト等でもイベントの告知を行った。 ・自然共生サイトに認定され、大芝高原の魅力の一つである生物多様性のPRにつながった
	今後の課題・取り組み	・SNSやウェブサイトを活用し、一元的な情報発信に取り組む。 ・掲示板の設置など、オンライン環境がない住民への発信方法を検討する。またシニア世代へ効果的に情報発信できるようSNSの種類を検討する。
	写真・図表による説明	SNS、村報の掲載状況 
	R7評価	概ね計画どおり実施されている ・自然共生サイト登録をPRに活用すること。 ・SNSでの情報発信のほか、シニア世代へ向けた掲示板や回覧版等での発信を検討すること。
	R8計画	■村HP、村広報誌による情報発信 ■SNS(Instagram)による情報発信 ■オフラインでの情報発信の検討
R8計画	新規・継続	継続
	事業費(予算)	記録映像・写真撮影業務 319,000円

施策シート

	No	13
	施策	つなぐ② 学校の森林教育のサポート
実施計画	目的	学校からの要望に応じて、大芝高原の木や森に関する学び、森をつかった学びをサポートする体制を整備します。 また、学校から要望があった場合は村から木材を無償提供します。 講師派遣にあたっては、みどりの少年団出前講座、学びと育ちの森づくり事業、信州環境カレッジ、郷土愛プロジェクトなど、国、県、民間の各種支援制度を活用します。
	実施主体	観光森林課 教育委員会
	実施期間	R6～R12
	成果指標	木材提供量、講師派遣回数
	実績・効果	学校からの要望に応じて、木材の提供や講師の派遣を行った。
R6までの取り組み	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている。 教育委員会との連携体制の明確化し、支援制度の活用促進を図りつつ、様々な学年が木や森と関わる体験機会が充実されると良い。また、学校林の管理方針を明確にすること。
R7報告	R7事業計画	■木材提供の継続とニーズの把握 ■森林環境教育に関する講師派遣制度や補助金の周知
	新規・継続	継続
	事業費(実績)	南箕輪小園芸委員会活動資材費 92,620円※ みどりの少年団活動費補助金 37,000円 【うち補助金】 学びと育ちの森づくり推進事業 92,620円 緑の募金配分金 37,000円
	事業実績	●木材の提供ほか ・南箕輪小 約0.5m3 ●講師の派遣 ・中学校 1回
	事業効果	・学校からの要望に応じて、大芝高原産アカマツ材の提供、講師派遣を行い、小中学生が森や木材に関わるきっかけとなった。 ・補助金制度は2校で活用があり、森林環境教育実施の一助につながった。
	今後の課題・取り組み	・木材提供とニーズの把握 木材提供を継続していく。学校の要望に応じて、規格や数量を柔軟に対応する。 ・村内部の連携 観光森林課と教育委員会との連携や役割分担について整理する。 ・講師派遣制度や補助金の周知 年度途中での制度の利用は難しいため、学校への要望調査や周知のタイミングを検討する。 ・学校林の管理方針の検討 学校の意向により手つかずであった学校林の管理方針を、R7森林協議会での提案等を踏まえ、検討する(No.1 ゾーニングと重複)。
	写真・図表による説明	南小園芸委員会活動 中学校学校林作業の写真  
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・こどもたちが森林と関わる貴重な機会であるため、継続して実施すること。 ・講師や内容を固定化せず、こどもたちが多様な人・考えに関わるようにすること。
R8計画	R8事業計画	■木材提供の継続 ■森林環境教育に関する講師派遣制度や補助金の周知 ■学校林の管理方針の決定
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	南箕輪小学校資材費 100,000円 南箕輪中学校資材費 50,000円 【補助】 学びと育ちの森づくり推進事業 150,000円

施策シート

	No	14
実施計画	施策	つなぐ③ 地域住民主体の組織(おおしば森部)の立ち上げ検討
	目的	おおしば森部(仮)と称し、地域住民が主体となって森で活動を行う組織の立ち上げを検討します。 村は、情報発信や国・県の補助事業の検討等、森部の活動をサポートし、複数団体の活動時に双方の利害が衝突しないよう留意し、調整を行います。
	実施主体	観光森林課
	実施期間	R7～R12
	成果指標	-
R6までの取り組み	実績・効果	-
	森林協議会委員コメント	-
R7報告	R7事業計画	■おおしば森部の立ち上げ
	新規・継続	新規
	事業費(実績)	-
	事業実績	安曇野市の「さとぷろ。」をモデルケースとして、地域住民の組織をサポートする体制の案を作成した。(森ねっと仮)
	事業効果	-
	今後の課題・取り組み	森林協議会で検討し、R8年度内に取り組みをスタートさせる。
	写真・図表による説明	-
R7評価	森林協議会委員コメント	概ね計画どおり実施されている ・ 早急に立ち上げ、ブラッシュアップしながら運用していくこと。 ・ 組織体系、事務分担、補助金など詳細を検討していく。
R8計画	R8事業計画	■森林協議会での検討、地域住民への周知
	新規・継続	継続
	事業費(予算)	-